

# 原つ子

学校だより No.9 (通算52号)  
令和5年5月31日  
小都市立大原小学校  
校長 山本貴澄 Tel 72-5500

今年度の重点目標「学び合い 助け合い やり遂げる集団づくり」  
合言葉「チャレンジ！ みんなでまなぶ やりとげる」



【みんなで学ぶ】

## 5・23 「人権を考える日」の取組

市内の小中学校では、人権感覚豊かで自分や友だちを大切にする子、誰もが安心して過ごせる学級集団づくりを目指して年4回、道徳や学級活動の中で「人権を考える日」の取組を進めています。先週、今年度第1回目の学習に取り組みましたので、その内容についてお知らせします。私たち大人も困っている人や助けを求める人に敏感に気付き、その人に寄り添った行動ができるよう気を配りたいと思います。囲み枠は子どもたちの意見や感想です。ご家庭でもお子さんがどんな学習をしたのか話題にしていただければと思います。

### 【1年生】

教材名：「かお」

ねらい：  
○顔の表情には気持ちが表れていることに気付き、自分や友だちのことによく知ろうとする。  
○学級の中で自分の思いを出したり伝えたりして、友だちの思いに気付くことの大切さを感じる。

【泣いている顔】 だいじょうぶ？ なかなかいで。 どうしたの？

【怒っている顔】 どうしておこっているの？ まって、なかなかおりしよう。  
けんかはやめて。

【いじわるした顔】 そんないじわるしないで。 なんでそんなことするの？  
やめたほうがいいよ。 どうしていじわるなことばつかっているの？

【困っている顔】 どうしたの？ なんでこまっているの？

□ 子どもたちは熱心に発表していました。相手の表情や様子に気付けるにはどうしたらいいか。友だちと気持ちよく過ごすために大切なことです。子どもたちは、生活経験や学習を通して学んでいきます。子どもたちが友だちや周囲の様子に敏感に気付けるよう、声かけなどして意識させたいです。

### 【2年生】

教材名：「めが出た」

ねらい：  
○ひとりひとりのちがいやがんばりを認められる。

一人一人がちがうのはおもしろいね。きがあうともだちだったらしいね。一人一人ががんばっているのはいいことだね。わたしもできることをやろうとおもいます。

□ 一生懸命に成長しようとする自分や友だちを重ねて多様性を認め、自己肯定感を高めていく授業でした。みんなちがってみんないいのです。今育てている野菜にも「元気に育ってね、がんばって。」と声をかけながら熱心にお世話をしてくれることでしょう。

### 【3年生】

教材名：「みんなとなかよくしたいのに」

ねらい：  
○いろいろな友だちとつながることで、学校生活がより楽しくなることに気付く。  
○周りの友だちがどんな気持ちで過ごしているかを考え、みんなでよりよい学級を築いていこうとする。

わたしは一人ぼっちになっているともだちのきもちにきづけるようになるために、「かおのひょうじょうやきもちを考えてきづけるようになりたいな。」と思いました。

わけは、わたしが一人ぼっちになつたらさみしいから、みんなもおなじきもちだと思ったからです。

- 休み時間に一人ぼっちでいる女の子。その子が自然と目に留まり、何で一人でいるのかな、さみしくないのかな?と心が動き、やさしくできる子を育てたいです。私たちもさらに人権感覚を高め、子どもたちが周りの様子に気を配れるように支援していくことが大切だと思いました。

### 【4年生】

教材名:「どうしたらしいんだろう」

ねらい:○友だちに対する自分の接し方を振り返って、おかしいと思うことを伝え合えるクラスをつくっていこうとする。

やさしさや勇気のある学級だったらまわりのこまっている人を気にかけることができると思います。けんかのないクラスにしたいと思いました。友だちにやさしくすると、友だちから自分もやさしくされると思います。ぼくは、自分のことばかり考えていたから、友だちと助け合いをしたいと思いました。

- 教材では学級で相手をいじめるできごとが起こります。いじめる子に同調する子もいます。主人公の「ぼく」はいけないと思いながら、仕返しがこわくてどうすることもできません。いじめる子に怒りを感じるとともに、「ぼく」に共感しながら弱い立場の子に寄り添う意見を深めたいと思いました。

### 【5年生】

教材名:「ジャンケンチャンピオン」

ねらい:○友だちに対する自分の考え方を振り返り、決めつけた見方で接していないか、友だちと対等な関係ができているかを考え、友達関係を見直す。

たくやがももえとじゃんけんの練習をしたのは、となりの席なのに何もしてあげていないことに気づいて、勝たせてあげたかったからだと思います。かず子が、「手伝いでなく、ももえさんは友だちだからいつしょにしているだけ。」と言ったことに、たくやは、「自分はももえにとって友だちじゃないのか。」と思ったからです。

- 「たくや」はなぜ「ももえ」とジャンケンの練習をやろうとしたのか。「かず子」の思いを聞いて、「ももえ」との関わり方を振り返り、「ももえ」の立場に寄り添えたこそその行動だと思います。「たくや」の変容を子どもたちに考えさせたいと思いました。そこに本当の友達関係の姿が見えてきます。

### 【6年生】

教材名:「友だち再発見」

ねらい:○仲間としてのつながりを深めるために、お互いのことをよく知り合い、真に信頼関係で結ばれた学級集団を目指す。

○以前からよく知っている友だちの再発見を通して、自分のことについても「発見」していこうとする思いをもつ。

友だちが悩んでいるとき(落ちこんでるとき)「どうした?」って聞いたら、「今は話しかけないで。」って言われそうで話しかけられなかつたけど、この話を読んで友だちに話しかけて相談に乗ることも大切なと思った。一年間で友だち再発見できるんじゃないかなと思った。再発見するためには、話そうとする気持ちと友だちのことを知ろうとする気持ちが大切ということを知ったので挑戦してみようと思った。

- 主人公の「和也」は、家庭の状況でいろいろして悩みながらも、友だちの「麻美」が自分より苦しい境遇の中で頑張っていることを知ります。今まで知らなかった「麻美」を再発見し、自分の弱さに気付きます。前向きに生きていこうとする「和也」に共感し、自分の生き方につなげました。

学習の中で子どもたちが登場人物に共感したり、怒りをもったり、焦点を絞って活発に意見交流をしたり、これまでの自分の行動について振り返り後悔や心の弱さに気付いたりすることができれば、最後に書く意見や感想にもその思いが強く表れてくるのだろうと思います。しかし、学習に深まりがないと子どもたちは世間一般に言われている道徳的な価値観を書きがちです。深く学び考え、これから生き方につなげ実践していく子どもたちを育てるため、今回の「人権を考える日」の取組を総括し教材研究や学習活動の工夫を重ね、子どもたちが主体的に自分の心を見つめていく授業づくりを目指していきます。